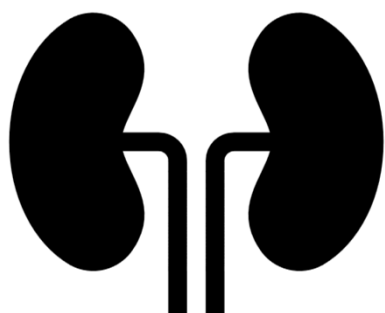
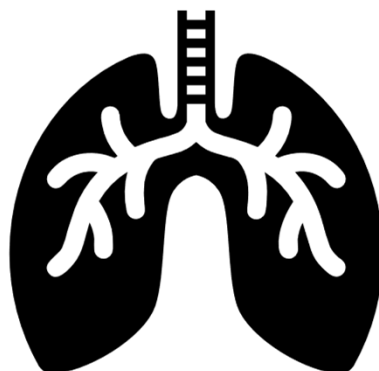
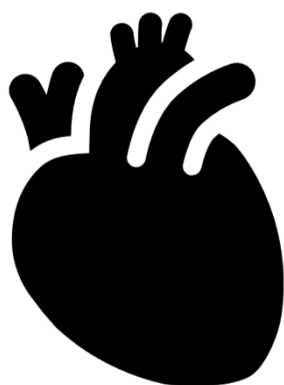


# 令和7年度 第48回三重県医学検査学会

会期：2026 年 2 月 1 日（日）

会場：鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパス



主催 一般社団法人三重県臨床検査技師会

# 第 48 回三重県医学検査学会

会 期：令和 8 年 2 月 1 日（日）

会 場：鈴鹿医療科学大学

開催形式：現地開催のみ

学 会 長：宇城 研悟（松阪市民病院）

実行委員長：坂下 文康（三重県立総合医療センター）

## ご案内

### ① 学会へ参加される方へ

受付は 8：45 から行います。

会員の方は、受付にて日臨技会員証を提示してください。

ランチョンセミナーは先着 100 名とさせていただきます。

受付時にランチョンセミナーチケットをお受け取り下さい。

日臨技生涯教育履修点数の付与は、専門 20 点です。

### ② 座長・司会の方へ

座長・司会の方は開始 5 分前までに次座長席でお待ちください。

一般演題発表時間は 6 分、質疑応答 2 分です。担当時間内に終了するようにご協力をお願いします。

### ③ 演者の方へ

スライドを 8 時 45 分から受付開始させていただきます。第 1 部の方を優先して受付させていただきます。

一般演題の発表時間は、1 演題につき 6 分です。学会運営上、時間厳守をお願いします。

個人情報の取り扱いには十分ご注意ください。

### ④ その他

喫煙は所定の場所をお願いします。

会場内での飲食は会場前面の 1 階フロアのみとなっております。

ランチョンセミナー以外のゴミは各自でお持ち帰りください。

## 日程表

|             |                        |
|-------------|------------------------|
| 09:30-09:40 | 開会式                    |
| 09:40-11:40 | 一般演題 第1部<br>演題 1～13    |
| 11:40-11:50 | 三重県臨床検査技師会 学術奨励賞表彰式    |
| 12:10-13:10 | ランチオンセミナー              |
| 13:25-14:00 | 一般演題 第2部<br>演題 14～17   |
| 14:15-15:45 | 学術部企画<br>心房細動診療における検査学 |
| 15:45-15:55 | 閉会式                    |

### 第 48 回三重県医学検査学会 実行委員一覧

|                |                                      |
|----------------|--------------------------------------|
| 学会長            | : 宇城研悟                               |
| 実行委員長          | : 坂下文康                               |
| 企業対応           | : 別所裕二、広瀬逸子                          |
| 受付・接待          | : 西村はるか、羽根頼子、岸江知哉、棚橋伸行               |
| 進行・スライド・PC・マイク | : 松林正人、中島佳那子、古森由規、今野和治、高羽 桂、<br>加藤真也 |
| 会場設営・誘導・弁当     | : 林 豊、前田るみ子、足立翔里                     |
| 広報・写真          | : 柿本将秀                               |

# プログラム

## I. 一般演題 第1部 9:40~11:40

1. BNP測定における採血管の比較と溶血度の検討  
済生会松阪総合病院 近藤 優衣
2. アンバウンドビリルビン測定における手技統一化と精度向上への取り組み  
三重中央医療センター 海津 柚葉
3. 残気量測定における閉鎖回路法と体プレチスモグラフ法の比較検討  
松阪市民病院 山中 美波
4. 稀発てんかん発作に対し長期脳波ビデオ同時記録検査を繰り返すことで発作を捕捉し、  
外科的治療につながった一例  
鈴鹿回生病院 宮村 恵理
5. 急変時対応における施設内での取り組みについて  
桑名市総合医療センター 小林 香穂
6. 当院脳ドックにおける認知機能検査について  
済生会松阪総合病院 北村 真帆香
7. 臨地実習の主体性向上と目的意識の醸成に向けた取り組み(第1報)  
三重中央医療センター 仁科 正樹
8. 末梢血液像での酵母様真菌検出を契機に確認された *Candida parapsilosis* 菌血症の1例  
桑名市総合医療センター 籠 徹
9. FilmArray®肺炎パネル検査と一般培養検査の比較例  
松阪市民病院 加納 若奈
10. 当院における FilmArray 血液培養パネル2導入における検査状況について  
桑名市総合医療センター 加藤 淳也
11. 膣分泌物から *Haemophilus influenzae* を検出した1症例  
三重県立総合医療センター 水野 光
12. CD トキシン遺伝子検査導入による臨床的有用性の検討  
鈴鹿中央総合病院 北川 はるか
13. 当院における抗酸菌培養検体での喀痰品質と結果の検証  
三重県立総合医療センター 田中 美月

---

## II. 学術奨励賞表彰式 11:40~11:50

適正な汚染率を目指した抗酸菌培養検査の処理方法の検討

済生会松阪総合病院 水野 愛海

当院における免疫組織化学染色用未染色標本保存方法に関する検討

伊勢赤十字病院 村田 浩太郎

---

## III. ランチョンセミナー 12:10~13:10

なぜ災害協定が必要なのか? — 協定締結によってここが変わる —

三重県臨床検査技師会参与 山本 幸治

DMAT 被災地活動と臨床検査技師の必要性

— 臨床検査技師は災害に対して何ができるのか —

三重県臨床検査技師会副会長 別所 裕二

---

#### IV. 一般演題 第2部 13:25～14:00

14. 全自動尿中有形分析装置 UF-5000 における Atyp.C と尿細胞診の比較検討  
済生会松阪総合病院 稲口 亜友佳
15. 当院におけるクロスミキシング試験の手順見直しに向けた取り組み  
三重中央医療センター 米永 萌恵
16. 破碎赤血球の迅速報告が、早期診断・対応につながった TTP の一例  
桑名市総合医療センター 藤田 夏音
17. 骨髓像所見と造血器腫瘍抗原検査マルチカラー解析が診断に有用であった悪性リンパ腫の1症例  
三重大学医学部附属病院 奥谷 唯
- 

#### V. 学術部企画 14:15～15:45

##### 心房細動診療における検査学 — 心電図・心エコー・検体検査による多角的アプローチ —

##### AF Electrophysiology — 心房細動における電氣的異常 —

市立四日市病院 松本 悠真

##### AF Dynamics — 心房細動における構造・機能評価 —

三重ハートセンター 松林 正人

##### AF Biomarkers — 心房細動における生体反応・病態把握 —

市立四日市病院 古森 由規

# I 一般演題 第 1 部

## 演題 1～2 座長

市立四日市病院 古森由規

### 演題 1

#### BNP 測定における採血管の比較と溶血度の検討

済生会松阪総合病院 医療技術部 臨床検査課

近藤優衣、濱口穂那美、青木健人、松本 梓、林 豊、福本義輝

ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(以下 BNP)は、心不全の重症度評価等で用いられるバイオマーカーであるが、安定性が低く、溶血により偽低値となることが知られている。当院では、BNP 測定に EDTA-2Na 7ml の採血管を用いているが、溶血することが比較的多い。また、日当直における再採血実施に対する溶血度の目視判定に技師間差があることも問題であった。そこで今回、現行の採血管と EDTA-2K 2ml の血算検査用採血管を用いた測定結果の比較検討と溶血度による BNP 測定値への影響を検討したので報告する。

### 演題 2

#### アンバウンドビリルビン測定における手技統一化と精度向上への取り組み

三重中央医療センター 臨床検査科

海津柚葉、米永萌恵、石本 睦、藤野晴日、小栗和也、羽根頼子、仁科正樹

新生児核黄疸症の発症予測において、アルブミン非抱合型ビリルビン(アンバウンドビリルビン)の測定は有用な指標の一つである。当院センターは周産期母子医療センターの機能を担っており、本検査はルーチン業務における必須項目となっている。しかしながら、

本検査は用手法であり複数の技師が担当する中で手技の統一化が確保されず技師間差が生じていることが課題であった。そこで今回、測定マニュアルを改定し、標準物質を用いた手技の再教育を実施した。その結果、測定値のバラツキが減少し手技の統一と精度向上に改善が認められたので報告する。

## 演題 3～5 座長

済生会松阪総合病院 岸江知哉

### 演題 3

#### 残気量測定における閉鎖回路法と体プレスチモグラフ法の比較検討

松阪市民病院 中央検査室

山中美波、井田葉津季、田間沙耶、西尾美帆、中島佳那子、西村はるか、宇城研悟

当院での残気量測定は、He ガスを用いた閉鎖回路法と、ボディボックスを用いた体プレスチモグラフ法の 2 種類を施行している。閉塞性肺疾患患者において、閉鎖回路法では残気量が過小評価となることが多いとされているが、拘束性肺疾患患者についての報告は少ない。そこで、一般的に行われている閉鎖回路法と、真値に近いとされている体プレスチモグラフ法について、比較検討を行ったので報告する。

### 演題 4

#### 稀発てんかん発作に対し長期脳波ビデオ同時記録検査を繰り返すことで発作を捕捉し外科的治療につながった一例

鈴鹿回生病院 臨床検査課<sup>1)</sup>、脳神経外科<sup>2)</sup>  
宮村恵理<sup>1)</sup>、松林佳代子<sup>1)</sup>、長谷川有紀<sup>1)</sup>、長澤美紀<sup>1)</sup>、三井滉平<sup>1)</sup>、可知晃奈<sup>1)</sup>、小倉華音<sup>1)</sup>、南部莉沙<sup>1)</sup>、市川尚己<sup>2)</sup>

当院では、2022 年 1 月よりてんかんセンターを設置し、てんかん発作の観察や脳波変化

の記録を目的に長期脳波ビデオ同時記録検査を実施している。検査期間内に発作を記録することができなかった事例も存在するが、特に外科的治療が必要な場合にはてんかん発作の捕捉は欠かせない。

今回我々は、初回の検査で発作を記録できず、再検査で発作を捉えその後の外科的治療に進むことができた症例を経験したので報告する。

#### 演題 5

##### 急変時対応における施設内での取り組みについて

桑名市総合医療センター 医療技術部 検査室

小林香穂、山中優香、杉谷春美、山中梓紗、梶原碧、藏城寛子、大矢知崇浩

私たち臨床検査技師は患者と直接接する仕事をしており、いつ急変患者と遭遇するかわからない。そのため、すぐに一次救命処置（BLS）を行えるよう日々訓練が必要である。今までに経験した急変時対応をもとに検査室内の環境改善や救急カートの物品把握、患者急変時を想定したシミュレーション、病院全体で行っている BLS 研修への参加など、院内で行っている取り組みを報告する。

#### 演題 6～7 座長

鈴鹿医療科学大学 棚橋伸行

#### 演題 6

##### 当院脳ドックにおける認知機能検査について

済生会松阪総合病院 医療技術部 臨床検査課

北村真帆香、松本羅那、白塚彩華、藤田実優、山田 主、北川拓実、岸江知哉、中川真理子、林 豊、福本義輝

現在、わが国では高齢化に伴い認知症患者が増加している。認知症は血液検査や画像検査のみで診断することは困難なため、日本脳

ドック学会の定める認定施設では認知機能障害のスクリーニング検査が必須項目とされている。当院では、以前よりもの忘れ相談プログラムを用いて検査していたが、2025 年 4 月からより詳細な評価が可能な改訂版長谷川式簡易認知機能評価スケールを導入した。今回その変更に伴う取り組みと導入効果について報告する。

#### 演題 7

##### 臨地実習の主体性向上と目的意識の醸成に向けた取り組み（第 1 報）

三重中央医療センター 臨床検査科  
仁科正樹、羽根頼子

臨地実習において、膨大な情報を効率的かつ正確にまとめる力量が求められるが、これに苦慮する学生は少なくない。そこで今回、この課題に対応するため、事前に具体的な実習予定を部門ごとに提示し、学生自身にその日達成可能な目標を設定させ、目的意識を持った実習参加を促した。実習レポートには設定した目標の自己評価に加え、達成度と理解度についても記載させた。本稿では、この取り組みが実習環境の変化と目的意識の醸成にもたらす効果について検討した結果を報告する。

#### 演題 8～10 座長

三重県立総合医療センター 高羽桂

#### 演題 8

##### 末梢血液像での酵母様真菌検出を契機に確認された *Candida parapsilosis* 菌血症の 1 例

桑名市総合医療センター 医療技術部

籠 徹、加藤淳也、足立翔里、藤田夏音、矢橋知子

深在性真菌症は日和見感染として年々増加傾向にあるが、臨床診断は困難なことが多い。

診断には  $\beta$ -D グルカンの測定や、カテーテル感染所見などが参考になる。カンジダ血症は一般細菌と比較して発育が遅く、治療開始の遅れが重症化を招く可能性があるため、検出され次第、迅速な報告と対応が求められる。今回、末梢血液像にて酵母様真菌を認めたことを契機にカンジダ血症を疑い、微生物検査室での同定・報告を経て治療導入につながった症例を経験した。本症例を院内感染対策の観点から報告する。

## 演題 9

### Film Array®肺炎パネル検査と一般培養検査の比較

松阪市民病院 中央検査室

加納若奈、西尾美帆、糸川沙耶、前田奈津江、中島佳那子、西村はるか、辻 佐江子、宇城研悟

当院では 2023 年 12 月より Film Array®肺炎パネル（以下、肺炎パネル）を導入し、依頼症例の多くで同一喀痰検体を用いた一般培養検査も併せて実施している。両検査の併用症例を対象に、培養検査単独での陽性率と、肺炎パネルを追加した際の陽性率を算出した。また、菌別の培養結果との一致率を算出したので、その結果を報告する。

## 演題 10

### 当院における FirmArray 血液培養パネル 2 導入における検査状況について

桑名市総合医療センター

加藤淳也 籠 徹

FirmArray 血液培養パネルは、敗血症の起因となる 33 項目の細菌、酵母用真菌、10 項目の耐性遺伝子を同時に測定する遺伝子検査である。当院での血液培養パネル導入において、検出状況や培養検査との比較を報告する。

## 演題 11～13 座長

伊勢赤十字病院 加藤真也

## 演題 11

### 膣分泌物から *Haemophilus influenzae* を検出した 1 症例

三重県立総合医療センター 中央検査部<sup>1)</sup>

水野 光、海住博之、高羽 桂、田中美月、坂下文康

*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）は中耳炎、上気道感染症や肺炎といった呼吸器感染症の主要な起炎菌であり、乳幼児では、細菌性髄膜炎の原因菌のひとつである。呼吸器系材料からの検出が多いが、まれに泌尿・生殖器材料からも検出されることがあり、妊産婦の膣培養検査では *H. influenzae* の検出率は 0.2 %との報告がある。今回、膣分泌物と血液培養から *H. influenzae* を検出した侵襲性インフルエンザ菌感染症を経験したので報告する。

## 演題 12

### CD トキシン遺伝子検査導入による臨床的有用性の検討

JA 三重厚生連 鈴鹿中央総合病院 中央検査科<sup>1)</sup>、三重北医療センター菰野厚生病院 中央検査科<sup>2)</sup>

北川はるか<sup>1)</sup>、別所裕二<sup>2)</sup>、森川智仁<sup>1)</sup>、市川孝昭<sup>1)</sup>、信太俊範<sup>1)</sup>

*Clostridioides difficile* は菌交代現象により医療関連の感染性下痢症や偽膜性腸炎を引き起こすことがある。当院では遺伝子検査装置を用いたトキシン B 遺伝子検出（NAAT 検査）を取り入れ、イムノクロマト法の結果を経て NAAT 検査を実施する検査フローで運用している。NAAT 検査導入による迅速な治療開始と除外診断による *C. difficile* 感染症への治療薬投与の抑制が期待され、今回は当



院におけるトキシン陽性者の治療と経過について後方視野的に調査したので報告する。

### 演題 13

#### 当院における抗酸菌培養検体での喀痰品質と結果の検証

三重県立総合医療センター 中央検査部  
田中美月、高羽 桂、海住博之、水野 光

喀痰の品質を視覚的に評価する方法として Miller & Jones 分類があり、唾液成分を多く含む M1 や M2 の喀痰では、一般細菌検査を行う意義が乏しいとされている。一方で、抗酸菌検査では、これらの不適とされる喀痰であっても有用であるとの報告がある。今回、当院において 2020 年 1 月から 2024 年 12 月までに抗酸菌培養が提出された喀痰検体を対象に、喀痰品質と結果を検証したので報告する。

## Ⅱ 学術奨励賞表彰式

### 令和 7 年度 学術奨励賞

済生会松阪総合病院 水野 愛海

演題名：適正な汚染率を目指した抗酸菌培養検査の処理方法の検討

伊勢赤十字病院 村田 浩太郎

演題名：当院における免疫組織化学染色用未染色標本保存方法に関する検討

# Ⅲランチョンセミナー

司会

三重県臨床検査技師会副会長 広瀬 逸子

なぜ災害協定が必要なのか？

－協定締結によってここが変わる－

三重県臨床検査技師会参与 山本幸治

大規模災害発生時において、医療支援活動を円滑かつ的確に実施するためには、平時から行政との連携体制を構築しておくことが不可欠である。特に臨床検査技師は、病院等の検査業務の人的支援や避難所における感染症関連の検査業務、深部静脈血栓症（DVT）検診など、災害医療において重要な役割を担うが、活動拠点や指揮命令系統が不明確な場合、迅速な対応が困難となる。

災害協定を締結することで、県災害対策本部との情報共有が密となり、医療ニーズの把握や DMAT 等の医療チームとの連携が円滑となる。また、派遣要請や活動内容が明確化され、支援判断の迅速化につながる。

三重県臨床検査技師会は、令和 7 年 9 月 10 日に三重県と「災害時における臨床検査技師の派遣に関する協定」を締結した。本協定は全国で 13 番目、東海地域では初の取り組みである。本発表では、協定締結の意義と、災害時における臨床検査技師の役割について報告する。

DMAT 被災地活動と臨床検査技師の必要性

－臨床検査技師は災害に対して何ができるのか－

三重県臨床検査技師会副会長 別所裕二

日本 DMAT は災害超急性期に救急医療を提供することを目的とし、平成 17 年（2005 年）4 月に創設された。これまでには新潟県中越沖地震、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震、新型コロナウイルス感染症対応、能登半島地震など多くの災害にて DMAT が活動している。これら DMAT 活動のなかで、自身も 2011 年から日本 DMAT の一員として被災地支援や実動訓練など災害関連活動を行ってきた。その中で、これまでの災害活動の中で感じた DMAT 臨床検査技師としてできること、そして災害時における臨床検査技師の必要性を考え、これから来るべき大規模災害に向けて、安心かつ継続して受けられる医療の提供のために臨床検査技師として何ができ、今、何をしなければならないのかを考えたい。

## IV一般演題 第2部

### 演題 14 座長

伊勢赤十字病院 前田るみ子

### 演題 14

#### 全自動尿中有形分析装置 UF-5000 における Atyp.C と尿細胞診の比較検討

済生会松阪総合病院 医療技術部 臨床検査課

稲口亜友佳、大谷友哉、川口 香、林 豊、福本義輝

尿沈渣検査は腎・尿路系疾患の非侵襲的検査として広く用いられている。近年では検査の効率化、TAT 短縮を目的に自動分析装置を導入する施設が増えており、当院においても全自動尿中有形分析装置 UF-5000(シスメックス社製)を用いて尿沈渣の判定を行っている。本装置には研究項目として異型細胞等の特殊な細胞を検出する Atyp.C(atypical cells)があり、悪性細胞の早期発見の一助となるとされている。

今回我々は、Atyp.C の値と尿細胞診の結果を比較し、尿中異型細胞の検出における Atyp.C の有用性について検討を行ったので報告する。

### 演題 15～17 座長

桑名市総合医療センター 足立翔里

### 演題 15

#### 当院におけるクロスミキシング試験の手順 見直しに向けた取り組み

三重中央医療センター 検査科

米永萌恵、羽根頼子、石本 睦、仁科正樹

クロスミキシング試験は、APTT 延長の鑑別に有用なスクリーニング検査であるが、検査手順の標準化が難しく、施設ごとに異

なっている。今回、同グループ内の 20 施設を対象にクロスミキシング試験の実施状況についてアンケート調査を行った。アンケートの結果、実施している施設は 6 施設であり、遠心条件や正常血漿の選択、結果報告方法などに施設間で差異がみられた。自施設の検査手順標準化へ向けて他施設の状況を参考に検討したので調査結果を報告する。

### 演題 16

#### 破碎赤血球の迅速報告が、早期診断・対応 につながった TTP の一例

桑名市総合医療センター 医療技術部 検査室

藤田夏音、足立翔里、矢橋知子、大矢知崇浩

血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)は、ADAMTS13 活性の低下により微小血栓を形成し、溶血性貧血、破碎赤血球等の所見を特徴とする疾患である。今回、救急外来受診患者にて、破碎赤血球を末梢血塗抹標本に認めた。そのため TTP を早期に疑診し、救急担当医へ速やかに報告した。さらに非常勤血液内科医にも相談し、血清・血漿の変化や溶血所見を詳細に共有した。本症例は、血液担当技師・救急医・非常勤血液内科医が連携して迅速に対応するチーム医療の重要性を示す一例である。

### 演題 17

#### 骨髓像所見と造血器腫瘍抗原検査マルチカラー解析が診断に有用であった悪性リンパ腫の 1 症例

三重大学医学部附属病院検査部

奥谷 唯、下飯屋雄二、宮崎 優、岡 春陽、深谷 仁、杉本和史

悪性リンパ腫の診断においてフローサイトメトリーは重要な検査法であるが、解析

項目の制限により異常細胞の同定が困難となる場合がある。外注検査の 3 カラーフローサイトメトリーの解析結果では十分な評価が得られなかった症例に対し、院内で骨髓像の詳細な観察および階層ゲーティングを用いた多項目解析が可能なマルチパラメトリックフローサイトメトリーを実施したことにより、DLBCL が示唆された症例を経験したので報告する。

# V 学術部企画

## 心房細動診療における検査学 ー心電図・心エコー・検体検査による多角的アプローチー

司会 林 豊（済生会松阪総合病院）

### AF Electrophysiology

ー心房細動における電氣的異常ー

市立四日市病院 松本悠真

心房細動（AF）は心房内で無秩序な電気興奮が生じる不整脈である。AF の機序は、肺静脈周囲心筋に由来する異所性興奮がトリガーとなり、心房内の電気的および構造的リモデリングを背景とした不整な電気活動が持続することによって成立すると考えられている。また「AF begets AF」という言葉が示すように、AF 自体が電気的リモデリングを引き起こし、さらに AF が発生・持続しやすい状態を作る。こうした電気的変化は時間経過とともに進行し、治療成功率の低下に関与するため、早期発見が重要である。AF を捉える代表的な検査が 12 誘導心電図であり、AF 検出の意義は高いが、特に発作性 AF では頻度が低く、症状があっても捉えられないことがある。AF 検出には観察時間が長いほど有効であり、標準的なホルター心電計や貼付型心電計などが推奨される。またウェアラブルデバイスの利用や人工知能による AF リスク推定なども注目されている。本講演では、AF における電気的異常を知り、捉える意義について概説する。

### AF Dynamics

ー心房細動における構造・機能評価ー

三重ハートセンター 松林正人

心房細動は電気的異常のみならず、左房を中心とした構造的・機能的リモデリングを伴う疾患であり、その評価において心エコー検査は極めて重要な役割を担う。心エコーは、心房細動の病態把握から治療方針決定、治療後の経過観察や予後評価に至るまで、診療の各段階に関与する検査法である。

本講演では、心房細動の血行動態を踏まえたうえで、心房細動診療における心エコー検査の基本的な位置づけを整理し、左房を中心とした構造・機能評価の実際とその解釈について解説する。左房径や左房容積といった形態評価に加え、ドプラ法や左房ストレイン解析を用いた機能評価について、測定の要点および留意点を症例画像とともに提示する。さらに、心房リモデリングの進展に伴って生じる僧帽弁逆流、肺高血圧、左房圧上昇などの続発病態が心エコー所見にどのように反映されるのかを概説し、これらの所見を治療方針や予後評価へどのようにつなげるかを考察する。日常検査の質向上に資する実践的理解を目指す。

## AF Biomarkers

－心房細動における生体反応・病態把握－

## Memo

市立四日市病院      古森由規

心房細動（AF）診療において、心電図や心エコーによる評価に加え、検体検査による「生体反応」の可視化が求められている。AFでは有効な心房収縮が消失し、心房内の血流速度の低下・心房内皮障害が引き起こされるため、AFは左心房内の血栓形成の原因、脳梗塞発症の危険因子であるとされる。特に心原性脳塞栓症は重篤な後遺症を残すことが多く、抗凝固薬の適応判断が極めて重要であるため、AFリスクの高い患者を簡便にスクリーニングし、集中的にモニタリングする方法が必要である。このような背景のもとでAFスクリーニングにおけるバイオマーカーの有用性が注目されている。バイオマーカーは低侵襲かつ定量的な評価が可能であり、心不全の診療で用いられる B-type natriuretic peptide（BNP）と BNP 前駆体 N 末端フラグメント（NT-proBNP）は、心房負荷の指標であり、心原性脳塞栓症のリスク評価にも応用される。また、心筋傷害を特異的に反映するトロポニン T（TnT）やトロポニン I（TnI）の高感度測定系では、心筋梗塞だけでなく AF 発症予測に対する有用性が報告されており、甲状腺機能と AF の発症リスクの間には密接な関係があることが知られている。

本講演では、バイオマーカーを用いた AF の多角的な病態解析と臨床的意義について解説し、検査値の背後にある AF の「病態を把握する」ことを目的として行う。



**48<sup>th</sup>**

**Mie  
Medical  
Laboratory  
Society**